

非得失、物我有無、都應同等看待、這一思想、集中反映在『莊子』的齊物論中」と説明する。
劉琨の「答盧諶詩、一首并書」の「遠慕老莊之齊物、近嘉阮生之放曠」の用例を引く。

102 ○洽恰…うるおい、和らいでいるさま。

『漢語大詞典』では「密集貌」と説明し、白居易の「《吳松桃》詩」の「洽恰擧頭千萬顆、婆娑扞面
兩三株」の用例を引く。

○寓言…他のものにかこつけていう。またその説話。ここでは、莊子の寓言篇を指す。

『漢語大詞典』では「①有所寄托的話」と説明し、『莊子』「寓言」の「寓言十九、重言十七、卮言日出、和以天倪。陸德明釋文、寓寄也。以人不信己、故託之他人、十言而九見信也。亦指托辭以寓意」の用例を引く。

103 ○還致…山水風物などの趣き

高駢の「途次内黄馬病詩」に「紅葉寺多詩景致、白衣人盡酒交遊」の句が見える。

『漢語大詞典』では「景致」の項に「亦作“景緻”。①風景」と説明し、白居易の「題周皓大夫新亭子
二十二韻」の「規模何日創、景致一時新」の用例を引く。

○幽…奥深い

104 ○風情…①趣き。②心に抱いている意思。③風月の情趣。面白い趣き。

③の用例として白居易の「薔薇正開春酒初熟。因招劉十九・張大夫・崔二十四同飲詩」に「試將詩句
相招去、倘有風情或可來」の句を挙げる事ができる。

この「風情」については、道真は自らの他の詩にも詠んでいる用例から考察して、「胸中の思い」や